

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あせらず ゆっくり あなたの自立を支援し 地域とのふれあいを大切にします」という理念のもとに全員で取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホームの入口とフロア内にかかげ、皆が確認・自覚し実践できるように努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの玄関やフロア内に掲示し家族、来訪者の理解に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所へ散歩の際は挨拶、また地域の小・中学生訪問時は積極的に交流の機会を作っている。近隣の方へのボランティアの願いをして交流に努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	建物が高台にある為、気軽に立ち寄れる雰囲気ではないが、区の人権学習等に職員が参加したり、施設行事等の参加声かけを行なって交流が持てるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年、当事業所において「介護者のつどい」と題して地域の方達に声をかけ研修会を実施した。又、3ヶ月に1回運営推進会を実施し参加者の方より地域の情報を収集している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	社内独自の自己評価表もあり、それをやることにより職員も初心に返り、問題点を検討し改善に向けてみんなで取り組んでいる。毎月1回はグループホーム会議・施設全体会議を必ず行っている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、区長、民生委員、社会福祉協議会、地域包括支援センターの代表の方達と3ヶ月に1回定期的に開催している。日々の暮らしと現状報告等を行い、地域とのかかわり方の相談をしたり、意見・助言を受け留め、今後のサービス向上を目指し取り組んでいる。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	質問、相談、要望等あれば、市の窓口を尋ねたり、電話で問い合わせ等を行ったりしている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年、成年後見人制度の外部研修に職員数名が参加している。今年5月には内部研修にて成年後見人制度の勉強会を実施している。現在、後見人制度の必要なケースは出ていない。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	こういった事件や関連がある新聞記事などは施設全体に回覧を回し、職員で話し合いの機会を設けている。またカンファレンスを開き、事例を通して職員一人一人が考え虐待防止に努めるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>担当者を決め、重要事項説明書・契約内容を全て説明し、理解・納得を得てから捺印を頂いている。不安や疑問等にも十分に時間をかけて対応している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理の流れをフロア内に貼ったり、契約時に苦情相談窓口について説明を行なっている。家族が面会来訪時に職員が声をかけ、近況報告したり利用者の意見や不満はないか聞いている。また日頃の様子や談話の中から不満・苦情を汲み取り、改善を図り、快適に過せるように努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時やカンファレンスにて近況報告を行なっている。預かり金を使用した際には小遣い帳に記入し、家族の確認サインを頂いている。健康状態の変化があった場合は必ず家族に連絡し相談している。職員の人事異動等は家族会や当ホームだよりにて随時報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理の流れをフロア内に貼ったり、契約時に苦情相談窓口について説明を行なっている。家族会を開催し質疑応答の場を設けている。又、カンファレンス時や家族面会時にも声かけをし、意見等を話せる雰囲気作りに努めている。意見等言われた場合はその都度職員で話し合い、反映できるよう努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回、当ホーム会議と施設全体会議を行ない、話し合いの場を設けている。副支配人・管理者は話しやすい雰囲気作りや意見を反映できるよう努力している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態・状況に柔軟に対応できる職員の確保を心がけている。家族の要望にて受診・付き添いにもできるだけ対応できるよう職員の確保に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	働きやすい環境作りを心がけ、退職者や人事異動が必要最小限であるよう努めている。昨年10月より職員の退職、異動はあっていない。しかし、離職・転職する職員も多いのが現状である。		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	募集時には性別・年齢は不問としている。男女、各年令層の職員構成とする事が、入居者にとっても良い事だと考えている。大先輩である利用者のできない分をお手伝いするという仕事に誇りと自信が持てるような職場づくりを実践している。		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	内部研修にて接遇マナーや人権教育を行なっている。利用者に対する言葉使いは常に尊敬をこめて、また職員間でも丁寧な言葉使いを指導している。		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	新人、中途採用者ともOJTを主体に実地指導を行なっている。外部研修受講、社内他拠点での研修を偏ることなく多くの職員が受けられるよう配慮している。		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	昨年より同業者の施設見学等と行って交流に努めている。		交流について全国グループホーム協会への加入等のアドバイスを頂き現在、検討中である。
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	副支配人は管理者や職員とのコミュニケーションを大切に、管理者もまたよく相談に乗ったり、勤務上の配慮をしたり、年に数回食事会を開催して職員のストレス発散を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎月のリーダー会議にて各リーダーから報告を聞き状況を把握している。また、スキルアップした職員に対しては資格手当てや昇格もあり職員が向上心を持って仕事ができる職場である。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学の対応はもちろん、パンフレットや資料を用意して説明を行っている。また体験入居の説明や本人との面談、家族からの状況説明・相談にも応じている。入居後も本人・家族とアセスメントを行ない、色々な状況把握に努めている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学時の対応はもちろん、パンフレットや資料を用意して説明を行っている。また体験入居の説明や本人との面談、家族からの状況説明・相談にも応じ、信頼関係の構築に努めている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に体験入居も勧め、それにより本人が入居した方が良いのか、他のサービスが良いのか家族や本人、担当者と話し合いを行ない、決定している。またその方に一番合ったサービスの検討も実施している。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>契約前や契約時に、なるべく本人にも同席してもらい、施設見学等をお願いしている。可能であれば体験入居を利用してもらい、サービスの実際を体験し、納得の上でサービス開始をしている。また、体験入居中は他入居者との関係作りにも努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員には常に相手の立場になって考えるよう伝えている。日々の生活の中で学ぶ事も多く、ゆっくりと談話ができる環境作りにも努めている。食事を職員と一緒に摂る事で会話の機会を増やしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お互いに協力出来る体制を心がけ、気軽に話し合える雰囲気気を大切にしている。家族の面会来訪時は入居者の現状報告をしたり、変わりあれば電話での報告も行っている。また行事等への参加案内の声かけも行っている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のこれまでの関係を理解し、尊重しつつ支援していけるよう努めている。変わりあれば、入居者の様子も面会時等に話し、当苑での生活の様子を伝えている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人馴染みの生活用品を持ち込んで頂いたり、知人の方の来苑時には気軽にお越し頂けるように声かけしている。又、本人が望めば手紙や電話の支援も行なっている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、利用者の性格等を把握し、声かけや支援を行なうよう努めている。又、孤立しないようになるべくフロアに誘いレクリエーション等をして職員も間に入り、コミュニケーションを取っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	本人が亡くなられ、退去された家族も時々遊びに来て頂いている。話を聞き相談にもものっている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ、直接利用者本人に話しを伺ったり、日常会話の中や表情等から、その人の思い・希望を把握するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に本人や家族から、又はケアマネージャーから今までのサービス利用情報を伺ったり、日々の生活や会話の中で生活歴や馴染みの暮らしを把握するよう努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の状態・状況等の申し送りとノートによる連絡を徹底。利用者の担当者を決め、しっかり日頃の様子観察を行い、カンファレンスや月に1度の会議実施にて利用者の現状を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員で月に1度はモニタリングを行ない話し合っている。その後、家族や利用者とも日頃のケアについてお話したり、3ヶ月に1度はカンファレンスを開き介護計画の見直しをしている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化が生じた場合は職員全員で申し送り時に話し合いをしている。家族にも密に連絡を取り現状に即した計画の見直しができるよう努めている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の支援経過記録、個人記録等の作成により誰がみても状況が把握できるように努めている。夜間帯は赤で記入する等日勤帯と区別している。ケアチェック表にて介護計画の実施状況も記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの要望に対しては対応できる範囲で行なっている。家族にて対応が困難な車イス送迎や病院送迎・付添い等もできる範囲で行なっている。又、有料老人ホーム、デイサービス、ショートステイのイベント、レクに参加する等、交流を図り気分転換になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>運営推進会議には、区長・民生委員・地域包括支援センターの職員等に参加して頂いている。消防署とも年に数回は避難訓練や救命救急士による指導等で支援して頂いている。中学生についても体験学習の一つとして、年に数回来苑している。</p>	
43	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>・訪問理美容サービスの利用。 ・現在は1名の利用者が病院デイケアを利用されており、その準備や連絡調整を行っている。</p>	
44	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>3ヶ月に1度の運営推進会議にて話し合う機会はあるが、対象となる方がおらず行っていない。</p>	
45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者、家族の希望を大切に、なじみのかかりつけ医にて受診されている。原則家族にての受診対応になっているが、困難な場合は可能な範囲にて通院の支援も行っている。又、月に1回、協力医が当ホームを訪問し、健康管理をして頂いている。緊急時や利用者に変化があった場合は家族と利用者の了解のもと協力医等へ連絡し、柔軟な支援をしている。</p>	
46	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>主治医や協力医療機関、家族等と連携を取りながら認知症に関する相談や治療を受けられるよう支援している。</p>	
47	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>現在は看護職員を1名配置し日頃の健康管理や医療的支援をしている。又、緊急時に看護師不在の時は、他部署の看護師に協力してもらい支援を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院者がいた場合は、お見舞いに行き、本人と会って話しをしたり、病院関係者等と現在の様子や今後の事等についても情報交換している。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時によく家族から重度化し寝たきりになった場合の事を聞かれる事が多いが、その時には他の利用者に対して暴力・迷惑行為があった場合と医療的な治療が必要になった場合は退去の対象となる事があるが、寝たきりでもその方であった支援をみつけ、主治医や家族等と十分に話し合っ未永く支援していききたい旨を伝えている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は、対象となる利用者はいないが、以前亡くなられた利用者については、その方の主治医等に相談しながら栄養補給に努めたり、入院されるまではホームで出来る限りの支援をし、本人に取ってより良く過ごせるように努めた。		今後の変化に備えて利用者の状態を勘案し、家族や主治医と、よく検討し準備していききたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご入居時には、環境が変わる事のリスクを理解し、両方の関係者、本人、家族と話し合いの場を設け、情報交換をし不安を取り除きダメージが最小限になるよう努めている。又、おおまかな経過記録を作成し渡している。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の人格と個人の尊厳を尊重した対応・傾聴に努めている。又、記録等の個人情報についても鍵付きに保管する事とし、職員は退職後も漏洩しない事とし覚書を交わしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が自分から話せる雰囲気づくりや自己決定を大切にしている。又、うまく表現できない利用者については日頃の様子観察と会話の中から見出せるよう支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、その人らしく自由に過されている。希望に沿って支援している。大まかな1日のスケジュールはあるが決まり事は殆ど無い。		現在、外出の希望はないが、今後個々の外出の機会を作っていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝や外出の前は必ず整容の声かけをし、能力に応じて身だしなみやおしゃれをされている。職員は手直しの支援を行っている。又、理美容の希望あれば連絡をとり実施している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は何が好きで何が食べたいのか、今の季節は何がおいしいのか等話しながら一緒に食べている。毎食後、茶碗拭きやお盆拭きの手伝いをされている。又、週に1回はおやつ作りをし、今度は何を作ろうかと相談しながら次のおやつ作りを楽しみにされている。去年は全員で外食に参加した。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は日常的に楽しめるように支援しているが、体調面の問題や医師からの禁止がある場合は主治医・家族と相談して望まれる支援をしている。		利用者に食事制限のある方がいるので実施しなかったが、家族等とメニューの検討を行いバイキングランチを実施したいと考えている。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1日の排泄記録をつけ一人一人の排泄状況を把握し、時間を見て声かけしたり、オムツの方でも状態をみてトイレへ誘導している。夜間、オムツの方は起床時清拭を行い、清潔に努めている。		排泄について拒否の強い利用者については誘導困難で支援が難しい。現在は他の部署職員にて声掛け支援して頂いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の健康状態、希望、家族の希望を考慮し、入浴していただいている。拒否の強い場合は無理強いはない。本人が希望すればいつでも入浴できる。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息、仮眠は自由にされている。室温、照明、寝具の配慮はもちろんの事、話を傾聴し不安を軽減する等の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「自分で出来る事は行って頂く」を基本とし、利用者の能力に応じて、洗濯物や食器拭き、居室掃除等各自担当してもらい、役割・張り合いを持って生活されている。季節毎の飾り作りや外出、畑仕事等を楽しみにされている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、預かり金の出し入れは、ご家族の要請により職員が行なっている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩、ドライブは日常的に行っている。希望があれば、その都度支援している。		現在は買い物等の希望はなく、行っていないので、今後検討していきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	担当を決め、月に1度、普段行けない所(利用者の要望も取り入れ)への行事計画を立て外出レクを実施している。家族へも参加声掛けしている。いちご狩りでは普段とは違う笑顔が見れた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて支援している。又、事前に家族へ相談・了解を得て支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂けるように配慮している。椅子やお茶を用意しゆっくりして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止をよく理解しており、身体拘束をしないケアを実施している。又、施設全体で身体拘束廃止委員会を立ち上げ、月に1回話し合いをしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はついているが、職員はかけた事はない。当ホームは2Fにあり、出口はそのまま吹き抜けのホールに通じており危険だと言う事で家族の希望もありテンキー操作にて以前は施錠していたが、普段の利用者の様子を見て現在は施錠していない。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアには必ず1人は見守りを配置し、昼夜を通して利用者の所在を把握し居室での様子確認を行い、安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は、職員が保管・管理をしている。利用者が使用する場合は見守りながら、臨機応変に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>一人一人の身体の状態、理解度を把握し、職員で話し合いをして事故防止に取り組んでいる。又、年2回の非難訓練実施と外部研修にも参加している。</p>		
72	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>消防署主催の救命救急士の講習を受けたり、月1回のスキルアップ委員会にて応急手当等の勉強会をしている。</p>		
73	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署、職員、利用者参加の避難訓練を年2回行なっている。</p>		
74	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>転倒に関するリスク、生活していく中で状況の変化によるリスク等を家族と職員とでカンファレンスを開き、利用者にとってより良い生活となるように対応策を話し合っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日、バイタルチェック(体温・脈拍・血圧)を行い、体調の変化や異変に気付いた者は看護師へ報告し、状態・情報の確認を行い、家族へ状況報告し受診できるよう対応している。</p>		
76	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>必ず処方箋をもらい、職員は、用法・用量の確認を行なっている。薬が変更になった場合は看護師やその日のリーダーが責任を持って申し送りノートに記録、全職員へ報告するようになっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人一人の排便状態をチェック表に記載し排便調整を行っている。食事の工夫と、水分補給、毎日の軽い運動等、便秘の予防に努めている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行なっている。困難な方は一部介助を行なっている。痛みの訴えや張り・赤み等あった場合は歯科受診を勧めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録し、チェックしている。医師とも相談しながら、入居者の状態にあった食事の提供(キザミ・減塩・カロリー制限・水分制限)をしている。食欲低下の場合は、原因の追究と、好みの物や食べやすい物等、色々な工夫をし支援している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居前に感染症の有無を提出して頂いている。手指のアルコール消毒、職員の予防接種の実施。感染マニュアルの作成や内部研修での勉強会をしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所・調理器具の衛生管理に努めている。フキンやオシボリは漂白剤にて浸け洗いをしている。同一施設内の厨房より、その日使う分のみ食材が運ばれる為、残り物を使用する事がなく、いつも新鮮である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物は1Fがショートステイ、2Fがグループホームになっている。エレベーター前にはソファを設置。玄関には花壇を作ったり、ホーム入り口には職員の写真を掲示したりと違和感なく気軽に立ち寄っていただけるように心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通のスペースを中央に配置。居心地良く過せるように、空間・光・音に配慮している。特に夜間は寝室に光がもれないよう電気スタンド等を活用し工夫している。又、季節の花や壁面を飾ったり、行事などの写真を掲示したりと工夫している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはテレビ・ソファ・テーブル・イスを設置し、どこでも好きなように過せるように配慮している。又、個室なので一人になりたい時の場所もあるし、気の合う利用者同士で行き来されている時もある。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族の協力を得て、使い慣れたものや思い入れのある物をなるべく持ち込んで頂くように伝えている。本人が過しやすいように配慮し、家族と自由に模様替えもされている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、居室等の清掃と換気。朝・夕の室温チェックと空調の調整をこまめに行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、安全で自立した生活が出来るように手すりの設置、工夫している。廊下やトイレ・浴室にも手すりがあり、広々とした作りになっている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人に合った生活を支援し、自分でやれた時の喜びを大切に考えている。混乱や失敗をしても自信をなくさないように配慮している。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に畑を作り、利用者と職員とで苗を植えたり、収穫をしたり楽しみにしている。玄関には花壇を作り、花を植えて、水やりを楽しんでいる。又、玄関外にベンチを設置しゆったりと座り、自然を感じられている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・日々の暮らしの様子やイベント、ドライブ等、グループホームで活動された事はなるべく写真に収めるようにしています。ご入居者毎のアルバムを担当者が作成し、ご家族にお見せしながら日々の様子を説明すると分かりやすく、また思わぬ表情が撮れたりして大変喜ばれています。ご本人は認知症で数分前の事を忘れてしまっておられても、写真をごらんになると、「あ～そうだったね」などと職員や他のご入居者と会話が弾んでいるケースがよく見られます。
- ・回想法について職員が筑紫野ふるさと館で指導を受け勉強しました。回想法のための写真集があり、いつでも閲覧できるように本棚に設置しています。又、ふるさと館ではよく季節ごとに展示会が開催されるので、年に4、5回は入居者と見学に行っています。
- ・スキルアップ委員会を立ち上げ、月に1回、様々な職員研修を実施し職員の自己研鑽・スキルアップに努めています。
- ・当グループホームの周りは自然が豊かであり、お散歩などで四季を身近に感じていただいています。特に桜の時期は見事で毎年花見をしています。又、敷地内に畑を作り自然な花・野菜等を入居者と一緒に育て、収穫の楽しみや食べる事の喜びを共に感じていただいています。